

令和元年度 企画理事・企画調整理事・政策企画部 重点目標

	重点事項	成果目標（注）
1	<p>【新計画の策定等】 府民とともに新たな将来像を描く「新総合計画」等を策定・改定します。</p>	<p>新しい総合計画を策定し、目指す京都府の将来像の実現に向けて迅速に取り組みます。</p> <p>【新総合計画の策定】 今後の府政運営の指針となる新しい総合計画について、府民の方々の声をしっかり反映した上で、9月府議会定例会に最終案を提出し、議決を得た後は、その内容を府民と共有できるよう広報に努めるとともに、府庁一丸となって、府民や企業、あらゆる団体などと連携しながら、計画の実現に向け、迅速に取り組みます。</p> <p>【地域創生戦略の改定】 京都府地域創生戦略の最終年度を迎え、これまでの成果や課題を踏まえた上で、新総合計画や国のまち・ひと・しごと創生総合戦略との整合性を図りつつ、少子高齢化対策や地域経済の活性化、定住・交流人口の拡大、魅力ある地域づくりなどの地方創生の取組を推進する京都府地域創生戦略の改定を行います。</p>

（注）目指すべき成果目標を記載する。その際、数値目標を設定することが適当な場合は、数値目標を記載する。

令和元年度 企画理事・企画調整理事・政策企画部 重点目標

	重点事項	成果目標（注）
2	<p>【地域政策の一体的な推進】 まちづくりの地域課題に横断的に対応し、「もうひとつの京都」セカンドステージの推進など、魅力ある地域づくりを地元市町村、振興局と共に進めます。</p>	<p>広域振興局と本庁との連携を強化し、「もうひとつの京都」のセカンドステージをはじめとする地域政策や、地域コミュニティの再生を一層推進します。</p> <p>【地域振興策の一体的な推進】 地域の持つ地域課題を的確に把握すると共に、広域的な地域振興の取組に対して、部局横断的なチームを編成し、地元市町村と連携して魅力的な地域づくりを進めます。</p> <p>【「もうひとつの京都」セカンドステージの推進】 京都市、近隣府県とも連携し、国内外の観光客に対して訪ねてみたいくなる食や体験等の観光商品を提供するとともに、地域住民が誇りをもって、住んで良かったと感じられるよう観光地域づくりを、DMOを通じて進めます。</p> <p>■ 海の京都</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド誘客の拡大（欧米豪向けプロモーション、キャッシュレス普及拡大） ・食、特産品のブランド化推進 <p><観光入込客数 11,252 千人、観光消費額 28,896 百万円、外国人宿泊客数 94 千人></p> <p>■ 森の京都</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都スタジアムオープンにあわせ、森の京都の玄関口としての機能強化、情報発信 ・インバウンド誘客のエリアを森の京都エリア全体へ拡散 <p><観光入込客数 10,919 千人、観光消費額 18,609 百万円、外国人宿泊客数 25 千人></p> <p>■ お茶の京都</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農山漁村振興交付金を活用したインバウンドの受入強化（京都市、奈良市、大阪圏に隣接） ・観光周遊カーシェアリング推進事業の導入 <p><観光入込客数 14,138 千人、観光消費額 25,775 百万円、外国人宿泊客数 23 千人></p>

（注）目指すべき成果目標を記載する。その際、数値目標を設定することが適当な場合は、数値目標を記載する。

令和元年度 企画理事・企画調整理事・政策企画部 重点目標

	重点事項	成果目標（注）
		<ul style="list-style-type: none"> ■ 乙訓、竹の里 <ul style="list-style-type: none"> ・乙訓・八幡市観光協会と連携したお茶の京都エリアとのツアーの造成 ＜観光入込客数 2,488 千人、観光消費額 925 百万円、外国人宿泊客数 1.6 千人＞ 【地域交響活動の推進】 <p>府民の安心・安全な暮らしを支えるために、府民自らが相互に連携、協働して地域課題の解決に取り組む活動を市町村や他の活動団体とともに支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の支え合いが必要な「介護予防」、「見守り・生活支援」、「子育て」、「ひきこもり」、「防災」の5分野を重要課題として選定し、その解決に取り組む活動や過疎・高齢化が進む地域の生活機能を持続的に提供するために多様な主体の協働により取り組む活動などを地域交響プロジェクト交付金で積極的に支援 ■ NPO等活動団体の基盤強化のため、実践的講座「NPOを極めるアカデミー塾」の開催や協働コーディネーター・ファンドレイザー等の専門家による伴走支援の実施

（注）目指すべき成果目標を記載する。その際、数値目標を設定することが適当な場合は、数値目標を記載する。

令和元年度 企画理事・企画調整理事・政策企画部 重点目標

	重点事項	成果目標（注）
3	<p>【AI・IoT 活用によるスマート社会で豊かさを実感できる京都府の実現】</p> <p>AI・IoT 技術を活用することで府民サービスの向上と府庁の業務の効率化、生産性向上に取り組めます。</p>	<p>スマート社会がもたらす豊かさを実感できる京都府を実現するため、AI・IoT 技術を活用した府民サービス向上の取組を推進するとともに、府庁の生産性の向上に取り組めます。</p> <p>【府民サービス向上】</p> <p>過疎地における交通手段の確保、人手不足の解消など、府民生活に密接な分野の課題解決や行政事務の効率化等に向けて、AI・IoT 等の先端技術を活用した施策を展開できるよう、全庁的な取組を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産官学連携による京都府 AI・IoT 活用推進会議を設置し、AI・IoT を活用した政策の企画立案・実現化に向けた助言を行います。 ・データの活用促進や、AI・IoT をはじめとする最新の ICT の活用による地域課題の解決、行政事務の効率化等を目的とする「スマート京都推進計画(仮称)」を策定します。 <p>【府庁の生産性向上】</p> <p>「働き方改革」の趣旨を踏まえた業務の効率化や事務の適正化のため、業務プロセスを改善するとともに ICT の活用を進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・業務改善及び効率化に係る府庁内の意識改革をさらに進めるため、これまで取り組んできた「業務プロセス改善」モデル事業の成果を全庁に展開します。＜業務改善件数 300 件＞ ・データやエビデンスに基づいた施策の企画立案ができる人材「京都府データサイエンティスト」を養成し、「京都データサイエンスラボ」を運営することで、民間企業等と連携しながら、府政の課題解決方策を検討します。＜養成者数 10 名＞ ・スマートフォンやモバイル端末の活用をより一層推進し、迅速な意思決定や対応力の強化を図ります。 ・クラウドツールの活用により、データ等を共有することで、多様な主体との連携や行政サービスの向上を目指します。 ・職員の意識改革、業務プロセス改善、モバイル端末・クラウドツールの活用等を通じて、生産性の向上を図ります。＜時間外勤務手当を予算ベースで対 28 年度比 15%以上削減＞

（注）目指すべき成果目標を記載する。その際、数値目標を設定することが適当な場合は、数値目標を記載する。